

宮城野原広域防災拠点整備事業に係る追加説明資料

- ・大規模事業評価調書（抜粋）

平成 26 年 2 月 5 日（水）

土木部 都市計画課

6 事業が社会経済情勢から見て効果的であるかどうか。(第6号関係)

【費用便益比】

- ・宮城野原公園の拡張に伴い、利用者が享受する効果(便益(B))が事業費(費用(C))を上回るかどうかを確認するため、費用便益比(B/C)を算出した。
- ・国土交通省の大規模公園費用対効果分析手法マニュアル(改訂第3版,平成25年10月発行)に基づきB/Cを計算した結果、 $B/C=1.728$ となり利用者が享受する効果が事業費を上回る結果となった。〈附属資料11〉

なお、費用便益比は、マニュアルで想定している公園の一般的な防災機能を便益として算出しているが、本事業においては、マニュアルの費用便益比算出には加味していない広域防災拠点としての便益も生ずる。

【整備効果】

宮城野原広域防災拠点を整備することにより、以下の機能の確保、充実が図られる。

「災害時」

①救助・救急・消火

全国から来県する消防、警察等の支援部隊が一時集結する場所としての機能を基本とし、また、災害の規模等により活動現場に最も近い活動拠点(地域防災拠点等)で宿営できない場合などのため、ベースキャンプが可能なスペースを確保される。

宮城野原広域防災拠点は、地域防災拠点等を支援するものであることから、支援部隊のベースキャンプのほか、燃料、物資の供給などの後方支援機能の充実が図られる。

県域のほぼ中央に位置する宮城野原地区は、他の都道府県が被災した際には、県内の支援部隊の集結、派遣の拠点として適していることから、将来予想される南海トラフ地震や首都圏直下型地震等の広域災害に対する応援を行う場合に、宮城県の応援力を高める施設としての機能を果たせる。

②災害医療

基幹災害拠点病院である仙台医療センターでの医療、救急措置のほか、広域搬送のためのスペースを確保される。

仙台医療センターはドクターヘリの基地病院でもあることから、広域搬送等の場面においては、災害医療スペースでの活動と連携して対応できる。

③緊急輸送

傷病者、医薬品をはじめとした緊急輸送(搬送)機能を確保し、発災後の情報収集などにも有効なヘリコプターの離着陸場所及び給油スペースなどを確保される。

④物資調達・供給

県外各地からの救援物資は、流通在庫備蓄品の供給と異なり多種多様になるため、仕分けを含めた中継・分配機能を備える。

⑤備蓄

防災拠点施設として活用する際の大型テントや仮設トイレ等の資機材のほか、被災地からの要請を待たずプッシュ型で支援を行う際に必要な水などの備蓄機能が確保される。

⑥現地調整

宮城野原広域防災拠点には、庁内に設置される県災害対策本部から別途派遣される職員が駐在し、一時集結した各種支援部隊への進出拠点や救援物資の供給先、ルート等の情報提供をはじめ、広域防災拠点が有する各種機能に係る総合調整、災害対策本部等との連絡調整といった機能を確保される。また、近隣の市町村が被災地となり、救助・救急・消火の活動拠点となる場合は、支援部隊の現地指令機能も担える。

⑦ボランティア

発災から数日間の救急・救命等専門性の高い活動を必要とする期間後において、被災地で自立的に活動するボランティアのための野営機能が確保される。

⑧海外からの支援対応

海外からの救助活動要員、救援物資の受入機能は、基本的に国が介在して実施されることが多い。国と連携を図りながら、前述の「①救助・救急・消火」、「②災害医療」及び「④物資調達・供給」の考え方により、野営場所や情報の提供を行い、海外からの支援についても的確に対応ができる。

「平常時」

①県民がリフレッシュできる場

宮城野原公園総合運動場との一体的利用に配慮した公園、緑地とし、周辺市街地の文化的趣と調和した都会の喧騒から離れたくつろぎの空間が形成される。

また、ウォーキング、ジョギング、各種球技など健康増進につながる様々な運動が選択できる場も形成される。